

「私も最後はホームホスピスかあさんの家で看取られたい」

看護師 吉田由美

市原 美穂先生

先生から直接講演を聞く事が出来、とても嬉しく、また感動しております。
ホームホスピスを立ち上げる動機になったお父様の死、そして生きる気力を失ってしまわれたお母様の姿をそばで見てこられた…この辛い経験が原動力になっているのだと知りました。家族が安心して看取れるように補完する大切さ、必要性から、「宮崎にホスピスを」ではなく、「宮崎をホスピスに」。このテーマで動かれました。
衝撃でした。

立ち上げる際の人との出会いも素晴らしいと感じました。

今は亡き黒岩ゆかり先生、デンマークでビザが切れ強制送還され働く事になったラワーセン・いつみさん。

ホームホスピスが出来る運命であるかの様です。立ち上げられた後も、地域住民の方々の関わりも大事にされ文化や防災にも参加されている。人だけではなく、そこに昔からある「家」の存在を大切にされている。なるほど！と感じさせられました。

何より考えさせられたのが介護職への教育です。

直接介護をする人に対しての責任の持たせ方です。専門職のサポートを受けて結果を出す。という点です。栄養士、理学療法士から指導を受けその人に合った関わり方を学び、そして関わって結果を出す。一人一人プロとして、プライドを持って働いている。そんな風を感じられました。

看る方のニーズをとっても大切にされていると思いました。

ニーズに応えようとする制度がなかった。制度に応えようとする取りこぼされる人がいる。全てを解決出来るわけではないが、ニーズがあればそれに対応していく。亡くなる時は皆んな一緒。サポートの仕方を障害によって変えているだけ。

制度に当てはめようとせず。

制度を利用しながらその方々のニーズを見出し、気づかせてくれたからには、応えられるように。そんな寄り添う様に働けたらと思いました。

本当にありがとうございました。

追伸

バナナの縦切り…目から鱗でした。

食べにくいと、すぐ刻みにしてしまいました…